

注意 此住居中 粹客の通里かまを向ふ 寫眞 並に 料理亭へツイし けが 深き あり 何川様と云ふ 今戸の 御隠居

日毎愉快な酒ゆりも

此家の娘おせん

と云ふ物もあら

しき愛敬を

慕ふて花をあまら 先の掛

手活やて床の詠とせんをのし 恋のくらし

一寸むりの 珊瑚珠と金無垢の金物をおせん

やり心の艾を見せり 子に 氣のあつ女の心成

風の柳とよみおれもせは 花族さるのゆゑとて 夢の事なを 鬼と

品よく其場を断りてかき 跡より彼三品をな忘と物なり

としてまが程よく云 経かへりやれ 街の人居へ フソウカとて

受取りしる思げ 花族さるへ へらてせん

讀賣百九号ニ 歎矣せり

大阪新聞錦画

八号



難波屋

寺守殿
寺考殿
平ト